



いやさかかぐらざ

弥栄神楽座

嘉麻市



地域に根差し受け継がれる

神楽となることを願い

平成26年10月に旗揚げ。

平成27年5月17日

射手引神社において初奉納。

坑炭田山社會資合業鑛上野



(年六和昭)噸〇〇〇、六五一 量炭出 坪六五七、〇二二、一 敷坪區鑛 町田山郡德嘉縣岡福 地在所
人〇〇九約 敷夫鑛 日二十二月一十年三十正大 月年坑開

山田は炭坑で栄えた土地。
以前はたくさんの人で賑わっていた。
日本のもっとも栄える地域の一つであった。
廃坑になり賑やかだった町も人が減り、
今は過疎化が進んでいる。



石炭時報-第7卷-第10号-1932



なにか活動している神社と感じてもらうことから始める。



活動状況 座員40名、制作10名 毎年新しい神楽を作り続けている。

近隣の神社、町のイベントから声がかかるとようになってきた。
 嘉麻市の市報にもたびたび取り上げてもらったりしている。





イベントがない2月、3月を制作期間として、4月本格始動、5月奉納。

反省点

座員のやる気がありすぎる。勢いのみ。→計画性をもって運営を心がける。

たとえば

① イベント依頼をすぐに受けてしまう。

出演が増えると、準備、練習、すべてにおいて負担が多くなり次第に疲れてくる。

また弥栄神楽は多くの人数が必要なため毎回人集めに苦慮している。

② 向上意識が高い。

伝承を意識して創作しているが、基本作り手のイメージを大切にしているため、

創作意欲が掻き立てられ本番当日まで制作しているのがほとんど。

衣装は一点もので次がない。楽も一つ一つメロディーが違っており、難しいものが多い。

伝わっていくものは、どんな形をとっても伝わっていく。

反省点は個性でもある。悪い点でもあり、良い点でもある。

ボランティア意識

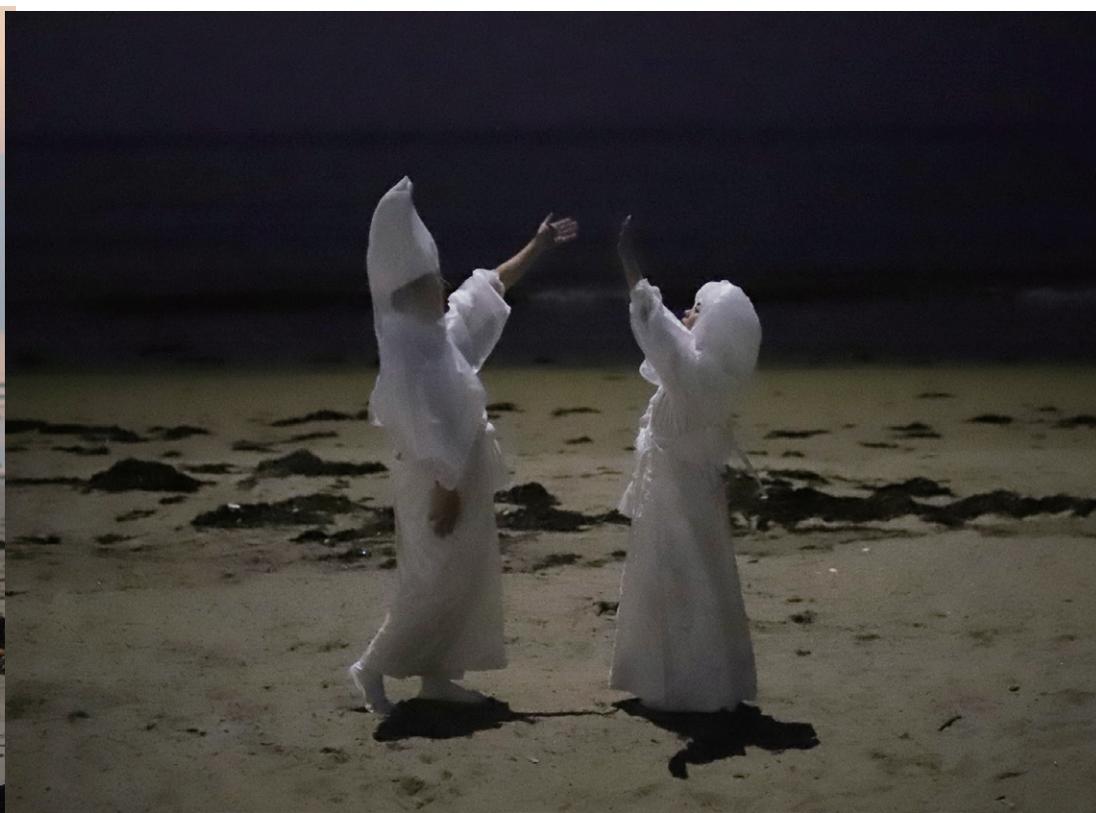
- 無償ボランティア→座員、制作手伝い
- 有償ボランティア→業を持っている人 (衣装、音、道具、面、書、デザインなど)
- 共通目標に向かって歩いているのでやっていける。



- 神主として、発起人として、夢を語ることはしている。
その夢につきあってもらっている。
- お茶菓子多数用意。楽しくなるように心がける。
- 役割分担。人は人についていく。
 - ・ 話を聞いてくれる人。・ 技術を持っている人。
 - ・ 何か引き付ける魅力があるひと。
- 気の合うひとたちが組んでやっているから無理がきく。

今後の希望、構想

- 神社だけでなく色々な場所で神楽を舞う。海外も視野に。
- 新しい神楽だからこそできること。
- プロモーションビデオ制作（演目に合わせた場所で撮影）



今後の希望、構想

嘉麻市山田を神楽の里に!!

神楽の里と呼ばれる地域はたくさん(豊前、石見、高千穂など)

→伝統神楽がある場所

創作神楽

→伝統芸能師らが中心となり作った神楽、国をあげて作った神楽

嘉麻市山田は創作神楽がある場所。

民間から沸き起こり自らすべてを生み出し、

しかも地域密着型の創作神楽はここだけ。

だからこそ、新しい何かが生まれる。

今後の希望、構想 嘉麻市山田を神楽の里に!!

新しい神楽が生まれる場所

創作神楽
フェス

- 伝統神楽の人たちも新しい神楽をつくる
- 高校ダンス部が新たな視点でつくる神楽
- 題目、ルールのみを作り神楽コンテスト

など

- 弥栄神楽座も特別なものでなく、
あたらしい神楽のうちのひとつになり、
100年後、高千穂や石見といわれるような、
あたらしい流派の神楽が生まれていたら最高。
- 地域に根差した神楽と観光神楽と融合。
神社での神楽は一つの軸として大切にしたい。
神主がいるのも強み。
神様をないがしろにしない神楽をできる。



いやさかかぐらざ

弥栄神楽座



ご清聴ありがとうございました